



ケアラー研修について学ぶ

ケアラー研修が11月5日(土)、総合文化会館で開かれ、約20人が参加しケアラーの現状など理解を深めました。

ケアラーとは何か、どう対応したほうがいいのかなど、ケアラー支援の意識を高めることを目的に同研修会を実施し、この日は大阪歯科大医療保健学部の濱島淑恵教授がオンラインで講演。「ケアには『する権利』と『しない権利』があり、すべての人が幸せに生きる権利を実現するのは社会の役割。両方が幸せに暮らせる社会でなければならない」と話しました。



交通事故死“ゼロ”を目指して交通安全街頭啓発

浦河町交通安全推進協議会や浦河町交通安全指導員協議会など各機関が協力して行う冬の交通安全街頭啓発が11月11日(金)、役場前で行われ、約80人が参加しました。

この街頭啓発は、冬の交通安全運動期間に合わせ、通過車両のドライバーや歩行者に対し交通安全を訴えるとともに、参加者自らの安全意識を高めるために行われるものです。

悲惨な交通事故を起こさない、事故にあわないためにも交通安全にご協力をお願いします。



土井電機工業からの桜の寄贈

11月11日(金)、有限会社土井電機工業(土井晋輔社長)より、町へ桜が寄贈されました。

寄贈された桜は、鮮やかな紅色で八重咲の「紅豊」という品種でうらかわ優駿ビレッジ AERU のウェルカムロード沿いに2本植えられました。池田町長は「今回の寄贈を含め、AERU に色々な桜が充実してきて嬉しく思う」と一言。土井社長は「20年以上桜まつりで、夜桜のライトアップに携わってきた。今後も浦河町の発展に協力できれば」と話していました。



老若男女みんなで楽しくそば打ち

博物館友の会(荻野節子会長)主催のそば打ち教室が11月13日(日)、浦河町ふれあい会館で行われ、約30人が参加しました。

開会式で荻野会長は「みんなで美味しいそばを作り、年越しそばを自分で作れるようになれば」と挨拶。そば打ち終了後、参加した子どもたちは「こねたり、切るのが特に難しかったけど、すごく楽しかった。そばはざるそばにして食べたいです」と満足げな笑顔みせていました。

いのちを守るために、四機関で合同訓練

10月14日(金)、浦河港で浦河消防署、浦河警察署、浦河海上保安署、北海道防災航空室による、四機関合同の訓練が行われました。

訓練は高校生が沖に流され行方不明になったことを想定して実施。各機関の連携の確認や、水難救助時の安全管理や手順などを確認。講評で柏木消防署長は「それぞれのスキルを活かし連携確認を行えた。今後も各機関で訓練を重ねて欲しい」と呼びかけました。



ミルトホールディングスからドローンが寄贈されました

10月27日(木)役場で、(一社)ミルトホールディングス(永山勝敏代表理事)が、町内の小中学生へとドローン160台を寄贈しました。

この寄贈は、世界の各地で様々なことに活用されているドローンを、直に触れて経験して欲しいという思いから行われ、永山さんは「地方の子ども達はドローンなどの新しい技術に触れる機会が少ない。ドローンに触れて新しいことに挑戦する気持ちが芽生えてくれれば」と話していました。



いのちを預かる決意を胸に、日赤載帽式

10月28日(金)、浦河赤十字看護専門学校で33回目の戴帽式が行われ、1年生10人が命を預かる決意を胸にしました。

女子は頭にナースキャップ、男子は胸に赤十字記章を戴き、キャンドルを手にナイチンゲール誓詞を斉唱。

誓いの言葉では、1年生代表の奥田由羽さんが「患者さんを支えていく看護をするため、より多くの知識を身につけ、失敗を恐れず前を向きながら助け合い、赤十字看護師という高い目標に向けて全員でたどり着きたい」と述べました。



ホッカイドウ競馬応援ビアパーティ in Aiba 浦河

2022 ホッカイドウ競馬応援ビアパーティー in Aiba 浦河が11月2日(水)、浦河ウエリントンホテルで3年ぶりに開かれ、約200人が来場し、門別競馬や抽選会で盛り上がりました。

コロナ感染予防対策のため、完全事前予約制200人限定とし、手指消毒や検温、マスク着用の対策を講じて実施。

久しぶりの応援イベントを楽しみにしていた来場者たちは、料理やビールなどを楽しみながら隣接のAibaで馬券を購入して、大型スクリーンでレースを観戦しました。

